



ID: 1295

科目名	建築構法【26年度生用】			コード			
英語表記	Fundamentals of Structural Constructions						
担当教員名	濱永 康仁			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式	面前	履修形態	必修		
授業概要							
建築物を造るには、具体的に敷地を求め、地盤上に確固たる基礎を設置してその上に構造物を形成する必要がある。構造を可能にする材料を選択し、求められる機能によって必要な空間を構成配置する。日常生活や生産活動には、エネルギーの供給や水の供給処理をするシステムを必要とする。居住環境として、音や光や熱などを人体の生理に応じて適宜調節をして快適な生活空間を調整することも必要である。本講義では、上記の内容について知識を得、理解を深めることを目的としている。							
到達目標							
(1)建築物の材料、構造、力学、意匠、環境、施工、法規、経済などの専門分野の基礎的な項目と事項を学習する (2) 専門的な理念・技術や考え方・方法を理解するために、前提となる概念や用語・述語がありその意味を理解する。							
授業計画							
第1回	建築の設計や技術体系の基礎を概説する 構法と工法						
第2回	建築構造・建築設備と建築構法の関係を学習する						
第3回	建築要素の構法と屋根・壁の機能を学ぶ						
第4回	床の形式、天井の構法、階段の機能などを学習する						
第5回	建築に付随する建具・造作などの扱い方を修得する						
第6回	木造の構成と材料の特性、地域的風土と工法の関係を学ぶ						
第7回	木造の在来工法の概要と工法の構成及び構造的な組み立てを学ぶ						
第8回	鉄骨構造の概要と特徴、設計の基本的考え方を学ぶ						
第9回	鉄筋コンクリート構造の工法的な特徴と設計の基本を学ぶ						
第10回	RC構造の地震被害を通して構造の問題と対策を修得する						
第11回	組積構造の構造的な特徴と構成要領を理解する						
第12回	建築物を支持する地盤と基礎構造について地盤・基礎の概要を知る						
第13回	建築・住宅を作るプロセスと生産過程を理解して工法の実態を学ぶ						
第14回	住宅建築がもつ基本的な性能に関する情報を学習する						
第15回	まとめ						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
学習目標(1)(2)をそれぞれ50%とし、各学習目標の到達度を測るための問題を出題する。評価基準はレポートを30%、講義全体の総合評価をする期末試験を70%とする。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
					30	70	
授業外学習			テキスト、教材				
			「構造用教材」日本建築学会				
参考書			受講生へのメッセージ				
「建築構法」内田祥哉監修(市ヶ谷出版)			木造・RC造・鉄骨構造の構法の概要と建築要素の基本構成を学ぶ。建築物を設計施工運用するに当たり、建築構造の概要、施工手順、建物の用途機能を発揮するための各種部位の概略を把握理解させることが本講義の目標である。				
キーワード							